

伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置基本計画（案）  
について

（意見報告）

平成 28 年 12 月 27 日

伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置基本計画（案）に係る検討会

## はじめに

近年の少子化の進行により、学校の小規模化が進んでおり、将来的に教育環境等への様々な課題が生じることが考えられることから、学校の小規模化による課題を解消し、より望ましい教育環境の構築と、教育の質の充実を目的として「伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置基本計画（案）」が平成23年11月に策定されました。

基本計画（案）策定から概ね5年が経過する中、児童生徒の減少や人口分布の変化等、様々な社会情勢や教育環境の変化が見られます。このような変化に対応するために、伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置基本計画（案）に係る検討会は、平成28年5月31日、伊勢市教育委員会から「基本計画（案）の今後の進め方」について検討を行うよう依頼されました。

本検討会では、現在の進捗状況を踏まえ、第1期の計画を中心に児童生徒数の推移や防災面、通学距離など様々な角度から検討を進め、ここに、意見をとりまとめました。

教育委員会におかれましては、この意見報告を基に、伊勢市の未来を担う子どもたちに、より良い教育環境を提供するための施策に取り組むことを期待します。

伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置基本計画（案）に係る検討会

会長 深草 正博

## 1 検討会の基本方針

- (1) 教育環境の整備を第一義とするとともに、学校の果たす役割等も考慮する。
- (2) 社会情勢や教育環境の変化等も考えながら、検討を行う。
- (3) 現行の基本計画（案）に掲げる「学校の適正規模」「学校の適正配置」等の考え方を踏まえながら、「学校適正配置計画の目標年次」及び「学校適正配置の実施計画」「学校適正配置計画のスケジュール」等の検討を行う。

## 2 検討事項

- 基本計画（案）の次に掲げる事項について、検討する。
  - ・学校適正配置計画の目標年次に関すること
  - ・学校適正配置の実施計画に関すること
  - ・学校適正配置計画のスケジュールに関すること

## 3 検討会開催日

回	期 日	場 所	内 容
第1回	平成28年5月31日	小俣総合支所	委嘱状交付、会長・副会長の選任、 検討内容の確認
第2回	平成28年6月21日	小俣総合支所	学校適正配置の実施計画
第3回	平成28年8月4日	小俣総合支所	学校適正配置の実施計画
第4回	平成28年10月4日	小俣総合支所	学校適正配置の実施計画
第5回	平成28年11月1日	小俣総合支所	学校適正配置の目標年次・実施計画 及びスケジュール
第6回	平成28年11月29日	小俣総合支所	検討会のまとめ
第7回	平成28年12月27日	小俣総合支所	意見報告提出

## 4 検討内容

### (1) 豊浜・北浜地区の小学校について

現在の基本計画（案）においては、豊浜東小学校・豊浜西小学校の2校、北浜小学校・東大淀小学校の2校を統合する計画になっている。4校とも全学年1学級編制であり、この傾向は今後も続いていくことが推計されている。さらに、2校ずつ統合してもほとんどの学年が1学級になることが予測され、将来的に再統合となる可能性も生じてくる。

そこで、適正規模化を図るため、4校の統合を検討することが望ましい。その際、豊浜・北浜地区は1小学校1中学校になるので、小学校と中学校の連携がより密に図れるような統合場所を検討することが望ましい。

## **(2) 二見地区の学校の移転について**

二見中学校は、適正規模を下回っており、この傾向は今後も続いていくことが推計されている。また、平成 29 年度には二見小学校と今一色小学校が統合され、一中学校区に一小学校となるが、地理的な状況から他地域の中学校との統合は困難である。なお、二見中学校は、沿岸部に位置するため地震、津波等の防災面を考慮すると、小学校と同時期での高台移転を検討することが必要である。その際、移転場所や施設については、小中学校の連携を念頭に置き、検討することが望ましい。

## **(3) 早修小学校・中島小学校・佐八小学校及び上野小学校について**

早修小学校・佐八小学校は全学年が 1 学級編制の状況であり、中島小学校も、今後大幅に児童数が減少することが予測されている。そこで、適正規模化を図るため現在の基本計画（案）どおり 3 校を統合する方向で進めることが望ましい。統合場所については、施設の規模や児童数等を考慮すると、中島小学校が望ましい。

上野小学校は、本年度複式学級が生じている。また、複式学級が解消されたとしても、全学年 1 学級編制で、しかも 1 学級の児童数がかなり少ない状況である。

そこで、遠距離通学の問題もあるが、基本的には、早修・中島・佐八の統合小学校と統合することが望ましい。統合時期については、3 校の統合時期や児童数などを考慮しながら、地元への丁寧な説明を重ね、適切なタイミングを検討することが望ましい。

## **(4) 第 1 期の統合スケジュール及び第 2 期以降の統合について**

第 1 期の統合については、現在の計画を基本に進めるのが適切であると考えられる。

第 2 期以降については、児童生徒数や社会情勢の変化など様々な不確定要素があり、統合時期を明記することは難しいと思われる。一方、適正規模化・適正配置を推進するためには、学校の統合だけでなく、調整区域の活用など通学区域の見直し等も取り入れたり、既存の施設で統合し、その後、施設の整備を行うこと等の方法を検討したりすることも必要である。

## **(5) 学校の統廃合に伴う施設の跡地利用について**

学校の統廃合に伴う施設の跡地利用については、校舎や屋内運動場をそのまま活用する場合もあれば、取り壊す場合など様々な選択肢が考えられる。いずれにしても、防災対策など市の施策との整合性を図りながら進めることが重要であると考えられる。

## おわりに

全国的に人口の減少及び少子高齢化が進行する中で、伊勢市においては、「伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置基本計画（案）」を策定し、教育環境の整備・充実を進めてきました。一方、基本計画（案）策定時（平成 23 年）の小学校の児童数は、7,152 人、中学校の生徒数は 3,624 人でしたが、平成 28 年度には小学校の児童数が 6,467 人、中学校の生徒数が 3,429 人となっています。児童生徒数の減少とともに、学校の小規模化、学級の少人数化が進んでおり、今後もこの傾向は続いていくことが推計されています。

検討会では、このような状況に対応し、児童生徒のよりよい教育環境の整備や教育効果の向上を図ることを念頭に、基本計画（案）の今後の進め方について、児童生徒数、学校運営面、防災面、通学距離など様々な観点から意見が出され、活発な議論を展開してきました。

それぞれの地域には、学校との深いつながりと幾世代にわたる長い歴史があります。現存する学校を統合等により見直すことは、地域にとっては大変重要な問題であることを認識しながらも、将来を見据えて、課題を焦点化し有意義な議論がなされたと考えています。

今後も市当局は、未来を担う児童生徒のために、より一層の努力を続けていただき、より充実した教育環境の構築を着実に進めていくことを希望します。この意見報告がその一助になれば幸いです。